

研究テーマ：グローバル人材を育む国際理解教育

I 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会について

- ◇本会は、在外施設派遣経験の教員が中心に組織する。
 ◇本会は、東京都の国際理解教育、帰国幼児・児童・生徒の教育、在外の幼児・児童・生徒の教育の充実・発展を願い教育研究活動を推進することを目的とする。
- (1) 在外教育施設から帰国した教員の歓迎会
 - (2) 在外教育施設へ派遣を希望する教員への研修会
 - (3) 在外教育施設での活動報告
 - (4) 在外教育施設へ赴任する教員の壮行会
 - (5) 東京都のグローバル教育を牽引する研究活動

II 主な活動内容

◇国内外の国際理解（現地理解）の実態を明らかにするとともに、東京都の「海外帰国子女教育」「国際理解教育・グローバル教育」「外国人児童・生徒教育」の充実を図る。

【研修内容】

- 5月 総会・派遣希望者学習会
- 6月 在外教育施設派遣教員帰国歓迎会
- 7月 在外教育施設講演会並びに派遣希望者研修会
講演会「世界遺産ガラパゴスに学ぶ持続可能な社会の作り方」
NPO 法人日本ガラパゴスの会 専務理事 奥野 玉紀様
- 9月 在外教育施設帰国報告会（1）
江戸川区立下鎌田西小学校 鈴木 侑先生（バンコク日本人学校）
八王子市立恩方第一小学校 森嶋 厚博先生（ブノンペン日本人学校）
指導講評 東京都教職員研修センター指導主事 野寄篤子先生
- 10月 在外教育施設帰国報告会（2）
八王子市立館小学校 森山 喜明先生
（アムステルダム、ブノンペン、ソウル日本人学校）
武蔵村山市教育センター教授 小野江 隆先生
（ジャカルタ、蘇州、パリ日本人学校）
- 2月 来年度在外教育施設派遣者との研修会



III 学校における国際理解教育（全海研関東ブロック大会研究発表から）

◇We have wonderful Fuchu!
 「おすすめの市内1日観光プランを紹介しよう」
 小学校6年英語

【学習計画】

- 1 市内1日観光プランを作る。
- 2 観光プランの紹介文を考え、発表練習をする。
- 3 グループで自分が作ったプランを紹介する。
- 4 自己紹介と観光プランの紹介をする。



【文章・単語表現】

- ・あいさつや自己紹介に使える文
Where are you from? など
- ・おすすめの場所を紹介するときに使える文
This is my/ our tourism plan～ など
- ・その場所への行き方を説明するときに使える文
Go out of the south exit. など

◇「日本の文化を外国の人に紹介しよう」
 小学校5年英語

【学習計画】

- 1 学習活動の流れを知る。
- 2 伝える内容を決める。
- 3 自己紹介の文(20秒程度)を作る。
- 4 わかりやすい説明の工夫をし、練習をする。
- 5 留学生と交流をする。

【紹介内容】

- 1 日本の歌・・・日本で古くから親しまれている詩
- 2 漢字・・・季節の行事や習慣について
- 3 昔遊び・・・けん玉・めんこ・おはじき・はしつかみなど
- 4 日本の楽器・・・たいこ



◇「武漢への手紙」 小学校3年総合的な学習の時間

令和3年2月、コロナウイルスの最初の被害にあった中国の都市武漢に学年全体で160通の応援の手紙を送った。Google 翻訳で調べた中国語を手紙に書く姿が見られた。歴史的な両国の関係よりも、未来を創る子どもたち同士がアジアの隣国としてメッセージをやりとりしている姿を見て、アジアにおける近隣国同士として協力していく体験をさせることの大切さを感じた。

◇「JICA国際協力出前講座」～世界を知ろう！ JICAボランティアの経験から学ぶ～
 中学校2,3年総合的な学習の時間

【目的】～世界を知ろう！ JICAボランティアの経験から学ぶ～

- (1) JICAボランティアの活動やボランティアの様子を通して、国際協力の必要性について知るとともに、自己の生き方を考えるキャリア教育の一環とする。
- (2) 開発途上国の実情や日本との関係、世界の国・地域の文化や人々の暮らしを知ることを通して、異文化を理解し、国際的な感覚を培う一場面とする。

【内容】

JICAボランティアを経験した方から、JICAボランティアを志した理由、開発途上国の実情、派遣国での活動、派遣国の文化や人々の暮らし、日本との関係、やりがいや苦労したことなどについて話を聞き、国ごとに分かったことを発表する。

IV 在外教育施設での研究実践～帰国報告会から

個に応じた一人一人の児童・生徒の指導・支援について
～日本人学校における特別支援教育～

フランクフルト日本人国際学校派遣 佐々木 啓治

【研究の背景と目的】

日本国内から支援できる仕組みづくりを目指して (遠隔支援システムの構築)

- 日本人学校においても
 - 特別な支援を必要とする児童・生徒が多数在籍
 - 更に入学希望が増加
- しかし日本人学校(海外)においては
 - 特別支援教育に関する専門機関が少数であるのが現状
 - 特別支援教育を充実させるための教育資源が少ない
- 日本国内にある学校と同様に
 - 特別支援教育の充実、支援体制の構築・推進が喫緊の課題



【研究の成果】

- 遠隔支援コンサルテーションを実施することで、日本の特別支援学校の豊富な知識と高度な専門性を享受することができた。
- 遠隔支援コンサルテーションによるアドバイスを実践した結果、児童生徒の行動が改善され、教員の変化もあった。
- 支援シートを効果的に活用することができた。この結果、教員間で特別な支援を必要とする児童・生徒のポジティブな面を共有できる雰囲気ができ、このことが、対象となった児童生徒だけでなく、他の特別な支援を必要とする児童生徒への支援にもつながった。
- 遠隔支援コンサルテーションを全教職員が視聴可能な研修にしたことで、全教職員の児童・生徒理解が深まり、特別支援教育に関する専門性の向上につながった。

小中連携プロジェクト：9年間で「自立した学習者の育成」へ

バンコク日本人学校派遣 鈴木 侑

小中連携会議において、小中9年間で目指す児童・生徒像の設定、育成したい資質・能力を明確にすることが挙げられ、「目指す児童・生徒像の明確化と共有」「目指す児童生徒像に向けた各教科・領域の年間指導計画」「ICTスキルの作成」に向けてプロジェクトを進めることになった。

【自律した学習者】の具体的な姿

- 自分の見出した問いから課題を立て【課題把握】、その解決方法を見出し【学習計画】、粘り強く解決しようとする【実践】ことができる児童・生徒
- 学びに主体的に取り組むとともに、必要に応じて他者と協働し、互いのよさを生かしながら学ぶことができる児童・生徒

これらを踏まえ、研究主題は「自分なりの問いをもち、学び続けられる児童・生徒～探究的な学びのある授業を通して～」と設定した。各教科等の本質も踏まえながら、小中9年間の系統的カリキュラムを作成し、探究的な学びのある授業の実現を目的とした。内容及び方法は、①カリキュラムマネジメント、②授業デザイン、③育成した資質・能力表の作成とした。本研究は3年次研究として提案した。



H27年度 パリ日本人学校派遣 師尾 勇生

私が派遣されたフランスでは、移民の受け入れが多く、街全体が多国籍であるのはごく自然なことであり、異文化交流は日常のことと感じられた。一方、日本では、ここ数年で、国内在住と思われる外国人を見かけることが増えている。移民については様々な条件の違いもあり、未だ社会全体として積極的に受け入れているとは言い難い。

内閣府・文部科学省・外務省から示されている「国際交流を通じたグローバル人材の育成」では「①グローバル化に対応したリーダーシップ能力・異文化対応力の育成」、「②日本人としてのアイデンティティの確立を図るための国際交流」が求められている。

総合的な学習の時間や道徳科などで扱う資料を通しての国際理解教育だけでなく、全教育活動においてSDGsの視点を持ち、持続発展する社会を支える人材として主体的な課題に立ち向かう姿勢を育成することが重要だ。(令和4年度 全海研関東ブロック研究大会研究発表から)

R元年度 バンコク日本人学校派遣 鈴木 侑

派遣最終年度は、研究主任として校内研究、校内研修、学校採用教員研修など学校運営に携わる業務に取り組んだ。初めて担任ではなく、学校全体を見る仕事に就かせていただいたことで、自分の物差しや視野を広くもつことができた。特に、学校採用教員研修では、若手教員に指導助言する立場を経験できたことで、学校全体で子供たちを共に育てるという意識を強くもつことができた。また、派遣前の先輩から聞いた「日本人学校はエースで4番の集まり」という言葉がまさに職員室であった。互いに刺激を受けながら、そして、それぞれの特性を生かしながらバンコクに住む子供たちのために全力を注ぐ。それは、ここでしかない貴重な経験であった。そして、多くの財産も得た。それは子供たちのためにタッグを組む仲間である。そのつながりは一生の財産となった。人を育てる仕事、人と関わる仕事、それぞれの価値観、思いは異なるけれど、向かう先、目指すところは同じである。それが何より嬉しく思えた。そういう意味でもバンコクの日本人学校は世界一だと思う。最後に、派遣していただいた東京都、派遣前に多くの御指導をいただいた都海研の先生方には感謝の言葉しかありません。

<連絡先>

団体名		東京都海外子女教育・グローバル教育研究会
代表者	所属	府中市立府中第五小学校
	職氏名	校長 森嶋 正行
	連絡先	042-361-9005
事務局	所属	町田市立鶴川第三小学校
	職氏名	主幹教諭 野上 光一
	連絡先	042-735-2127